

1. PRSの進展と方向性

[全体の特徴]

- 1) PRS 改革は開始したばかり、しかし制度構築は非常に挑戦的な課題
- 2) 援助量の増加と財政支援の拡大（幾つかの成果と援助依存の課題）
- 3) PRS モニタリングも形成途上か未形成
- 4) 市民社会の参加の少なさは今後の課題

[タンザニア]

- 1) PRS II 見直しの時期 ある程度の制度形成の進展
- 2) 援助資金のうち 34%が一般財政支援(GBS)、17%がイヤマークされた財政援助
- 3) パートナーシップ体制は強力で安定、ないしは強力過ぎ？

[エチオピア]

- 1) 近年の政府の努力をドナーは評価、特にコラプションの頻度の低さ
- 2) GBS を含む援助資金は増加傾向、各種改革がスタート(2002)
- 3) Wareda に拠点を置いた開発計画の野心的な性格とリスク

[ケニア]

- 1) NARC 政権の初期の期待と 04 年からのコラプション問題の再燃
- 2) ERS の野心的な性格とそれを可能としない財政構造
- 3) PRS 及び経済成長の前に政治的に困難な PSR の課題

表1 3カ国の PRSP の現状 (2004.9.)

	タンザニア	エチオピア	ケニア
PRSP 策定	2000 年	2002 年(SDPRP)	2004 年(ERS)
APR	2001.8,2003.3,2004.3	2003.12.	
重点セクター 及びイシュー	(初等)教育、道路、 水と衛生、司法、保健、 農業、HIV/AIDS	農業、社会セクター(教育、 保健)、HIV/AIDS、インフラ (道路、通信、水供給)、 ESRDF(社会投資基金)	ガバナンス・安全・法、PSR、イ ンフラ、生産セクター、公正と社 会セクター(教育、保健、HIV、 栄養、雇用)、(半)乾燥地農業

[考察]

- 1) 政府の PRS 改革を行う意思と努力には敬意。
- 2) 政策決定者の側に、安定的な援助流入（ケニアにおいてはその可能性）により安逸な傾向が
うまれるリスクが存在。エチオピアにおいては、計画の野心的な性格が懸案。

2. 地方分権化

[全体の特徴]

- 1) 分権化のニーズ、メカニズムと（一般）財政援助の進展には相互促進性
- 2) 地方における downward accountability の形成の課題（現行 PRS の限界）
- 3) 交付金では純粋な Conditional Grant は消える傾向、Bloc Grant 化が進展

[タンザニア]

- 1) 01 年からの急進的な LGRP プロセスの見直し、LGSP 協調融資が準備中
- 2) 財政面では formula-based の導入による将来指向の予算配分
- 3) 民主的分権化では devolution が本当に進むのかどうかにリスク

[エチオピア]

- 1) 歳入と歳出には大きな垂直ギャップ（新しい formula-based の導入検討）
- 2) ワレダ分権化の能力構築の課題（能力形成前に資金が供与、州は支援）
- 3) Tigre 民族の「分割統治」的な州分権化から困難な民主的分権化に挑戦

[ケニア]

- 1) KLGRP 事務局が形成され、憲法改正案が審議される予定
- 2) 民主的分権化と Bloc Grant の進展が予想されるが、NARC 政権の意思は未確定
- 3) 援助依存ではない改革の展望があると共に、脆弱で政治家の恣意的な介入も許す

付表 地方分権化政策の現状

	ケニア	タンザニア	エチオピア
(1) LG 改革(担当省庁)	KLGRP、LGA(98) (MLG)	LGRP (PO-RALG)	DLDP (MoFED)
(2) 経緯	2004 憲法草案	98 LGR 政策 99/00 法改正	94 憲法 02 ワレダ(4州)
(3) LG の数 (上位の単位)	175	114	8(州)
(立法可能な単位)	175	10,168	612(ワレダ)
(4) 交付金の地方政府 歳入に占める割合	31%	82%	80%

出典 原稿のなかに記載